



レヴィストロース神  
話学第4巻 裸の男  
L'Homme Nuから2

歴史神話学 対 構  
造神話学

部族民通信 2024年6月

第4巻裸の男 L'Homme Nu  
家族の秘密の章  
に歴史神話学批判  
が突然に現れた

北米神話の研究で著名な  
Thompson, Demetracopoulou  
らは歴史の視点で  
イシス、アビ神話を解説してい  
たから

レヴィストロースは  
歴史神話学の理論、手法に  
疑義を入れた

## 歴史神話学とは

世界の神話・物語の分類体系を目指す

フィンランド・アーネルの主唱、米・Thomsonの協力

北米神話に応用（Thompson、Demetracopoulouら）



## 歴史神話学

イシス神話など北米神話を  
歴史神話学の手法で解析した  
Dorothy Demetracolou pou

(英語Wikipedeiaから引用) Dorothy Demetracopoulou Lee (1905~75) は、アメリカの人類学者、作家、文化人類学の哲学者でした。オスマン帝国の首都コンスタンティノーブルのギリシャ人家庭の生まれ、教育を受け、結婚し、米国で4人の子供を育てました。写真はネットから拝借。

Thompsonはネットで確定できなかった

## 歴史神話学とは

神話を要素（登場物、情景など）に分解

それぞれ要素の出現数を数値化

最も出現の多い情景がその神話群の原型



歴史神話学の分布同心円  
挿絵は「食事作法の起源」  
月の嫁神話を解説している  
説明は後述

レヴィストロース Mythologiques 神話学  
(本文では構造神話学とする)

対

歴史神話学

レヴィストロースは構造主義から  
神話を主体として説明

対

歴史神話学 神話を歴史の客体  
として説明

その学説を「食事作法の起源」で否定しと本書「裸の男」の文中にあえてレヴィストロースは加えた。「食事…」の一節に立ち戻る。

歴史神話学批判の第一文 : « En comparant les valeurs numériques, on s'efforce de dégager des types qui distinguent de déterminer leur centre de diffusion » (食事作法の起源188頁)

数量的価値を比べながら、いくつかの類型を設定し、それによって伝播の中心を探る。数量的価値とは登場者、出来事ごとの出場回数である。

「いくつかの類型」とはそれら神話叢が共通して取り上げる原型の「筋道」かと(部族民は)理解する。

歴史神話学の同心円（前出）。月の嫁神話は「娘が月に嫁入りする」が本筋（Forme fondamentale）となって、それに種々の挿話が付け加えられる。図ではヤマアラシの誘い、太陽と月の対話、マキバドリが同心円を形成する。小さい円ほど（遠隔伝播なので）登場回数が少ないから、地域時間が限定される。主要要素（本筋）はどの神話も採用するから地域限定はない（以上は歴史神話学の旗手Thompsonの主張をレヴィストロースが翻訳した一節）



*suit un porc-épic (95 %) au sommet d'un arbre qui s'élève jus  
Le porc-épic se transforme en lune (45 %), en soleil (25 %) c  
personnifiés par un jeune homme (30 %). La jeune fille l'  
un fils (95 %). Malgré l'interdiction qui lui est faite de cr  
elle désobéit et découvre un orifice dans la voûte céleste (8  
ou aidée par son mari (25 %), elle se laisse descendre le lo  
de lanières (85 %), mais celle-ci est trop courte. Le mari  
devra tuer la femme, épargner l'enfant (85 %). Le ré  
aventures du fils de l'étoile, lune ou soleil (90 %).*

各要素の神話叢での出現頻度を%で表す。Forme Fondamentaleは100%、ヤマアラシの挿話（月が化けて娘を樹上に誘うの頻度は95%、ヤマアラシが月に戻るは45%、太陽は25%、若者は30%と数値化されている。

歴史神話学の同心円（左）。月の嫁神話には本筋（Forme fondamentale本筋「娘が月に嫁入りする）があって、それに種々の挿話が付け加えられる。図ではヤマアラシの誘い、太陽と月の対話、マキバドリが同心円を形成する。小さい円ほど（伝播神話での）登場回数が少ないから、地域時間が限定される。主要要素（本筋）はどの神話も採用するから地域限定はない（以上は歴史神話学の旗手Thompsonの主張をレヴィストロースが翻訳した一節）。



*suit un porc-épic (95 %) au sommet d'un arbre qui s'élève jus  
Le porc-épic se transforme en lune (45 %), en soleil (25 %) c  
personnifiés par un jeune homme (30 %). La jeune fille l'  
un fils (95 %). Malgré l'interdiction qui lui est faite de cr  
elle désobéit et découvre un orifice dans la voûte céleste (8  
ou aidée par son mari (25 %), elle se laisse descendre le lo  
de lanières (85 %), mais celle-ci est trop courte. Le mari  
devra tuer la femme, épargner l'enfant (85 %). Le réc  
aventures du fils de l'étoile, lune ou soleil (90 %).*

各要素の神話叢での出現頻度を%で表す。Forme Fondamentaleは100%、ヤマアラシの挿話（月が化けて娘を樹上に誘うの頻度は95%、ヤマアラシが月に戻るは45%、太陽は25%、若者は30%と数値化されている。写真は食事作法の起源188頁

(下引用文の前に文の前に彼女は「歴史神話学」の立場をとる « cet auteur applique en s'inspirant des principes de l'école historique » が挟まれる)

イシス神話、アビ神話を歴史神話学で説明するとは

« Selon notre auteur, cette idée serait celle d'un **inceste catastrophique qui menace l'ordre du monde**, et dont **les victimes cherchent à se venger**. Mais outre que cet énoncé simpliste laisse échapper toute de la substance concrète du mythe » (裸の男52頁)

著者 (Demetracolaoupou) によれば (イシス神話の類型は) **破壊的な近親姦が発生し、裏切られた女が世界を破滅する**—であろう。この単純すぎる理解 *cet énoncé simpliste* は、各共通項目が厳格に進行しているとの事実、それにもまして神話に盛り込まれる具体的肉質を見逃す…

先に述べた類型に当たる事象とは

« un inceste catastrophique qui menace l'ordre du monde » « les victimes cherchent à se venger »

**1近親姦と世界の破局 2女の復讐** しかしこれは単純すぎる理解である

更に ; « chaque détail est rigoureusement motivé » 「各々の要素は、厳格に動機づけられている」が続く

この動機づけは何を意味するのか。

この一句がレヴィストロース構造主義的神話解析と歴史神話学

違いを述べている。

(前引用文) 歴史神話学では登場物、出来事は« valeurs numériques » 数値化されるだけの物であり、「物は客体」です。何らかの主張することも自律進展することはありません。この解釈は « cet énoncé simpliste laisse échapper … » 「単純すぎる、神話の具体的な中身すべてを見失う」につながり、両者の手法の差を理解する鍵となる。

レヴィストロースは—

« chaque détail est rigoureusement motivé » 各々の要素は厳格に動機づけられている（上引用）の理解は「要素は厳格に動機づけられ進行する」。

「孤立した少年」や「隠された少年」など事象、物を主体一とする。

故に登場頻度を数値化、客体化、するは、意味をなさない。

(前スライド) 歴史神話学では登場物、出来事は« valeurs numériques » 数値化されるだけの物であり、「物は客体」です。何らかの主張することも自律進展することはありません。この解釈は « cet énoncé simpliste laisse échapper … » 「単純すぎる、神話の具体的な中身すべてを見失う」につながり、両者の手法の差を理解する鍵となる。レヴィストロースは—« chaque détail est rigoureusement motivé » 各々の要素は厳格に動機づけられている (上引用) の理解は「要素は厳格に動機づけられ進行する」。

「孤立した少年」や「隠された少年」など事象、物を主体—とする。故に登場頻度を数値化、客体化、するは、意味をなさない。

両者は**共通の分母** (**des dénominateurs communs** = 引用文) に共通化 (identifier) されている、それを探るのが神話学であると、レヴィストロースが諭している。

家族に美少年故に愛でられ、地下穴に隠されるenfant caché 隠される子

« une image symétrique avec celle d'un garçon hai, et isolé par lui (la famille) dans la brousse en haut d'un arbre :

l'enfant caché est donc l'inverse du dénicheur d'oiseux »

家族に嫌われ高木に追われ遺棄される少年（M1バイトゴゴ）は正逆として対称している。

## 言い換えると

「上下婚を犯し家族に忌み嫌われた少年」はその状況が主体である。「兄妹婚の結果生まれた家族に慕われる英雄」も主体である。主体ならばこそ上下婚、忌み嫌われ、少年が自律進展し、同形を保ち、時には正逆に変遷する。

進展変遷の様態は共通する分母に支配される。

その分母を探るのが神話学じゃ！と教える。

では上記のdénominateurs communs共通分母とは何か？

dénominateurs communs 共通分母とは何か？レヴィストロースは答えを教えない（賢人は良き答えを出す人ではない、良き質問を与えるのだ = 本人の弁。答えは君たちが考えなさい—いつもの事です）。

部族民（蕃神ハカミ）はこれぞレヴィストロース生涯の主題、文化とは畢竟「族内婚と族外婚」別の語では系統と同盟、さらには近親姦と族外姦、それらの対峙、対立、相克が、

この共通分母に支配されているのである。

彼の第一著作「親族の基本構造Les structures élémentaires de la parenté に立ち戻った思想風景です。

他にも具体的肉質として

近親婚を防止する登場者の奮闘、努力

復讐するは罪にあり

天地創造と神々の沈黙

それぞれが主体で自律し、そして共通分母に支配されている



レヴィストロース神  
話学第4巻 裸の男  
L'Homme Nuから

歴史神話学 対 構  
造神話学 了

部族民通信 2024年6月